



モーツァルト室内管弦楽団 第145回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 145. Regulärkonzert

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第11回

《フィガロの結婚》K.492

„Le nozze di Figaro“ KV 492

2012年1月9日(月・祝) 午後3時 ■ いずみホール

Montag, 9. Januar, 2012, 15:00Uhr *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/>
- 協賛：いずみホール (財団法人 住友生命社会福祉事業団)
- 協力：堺シティオペラ
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail: artists@gol.com
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503
<http://www.oaa1985.com>



モーツァルト室内管弦楽団 第145回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 145. Regulärkonzert

2012年1月9日(月・祝)午後3時 ■いづみホール

Montag, 9. Januar, 2012, 15:00Uhr ● *Izumi Hall*, Osaka

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第11回

モーツァルト：《フィガロの結婚》K.492

W.A. Mozart : „Le nozze di Figaro“ KV 492

台本：ロレンツォ・ダ・ポンテ / Text von Lorenzo da Ponte
レシタティーヴォを含むノーカット完全全曲版 / 演奏会形式上演 / 日本語字幕付

伯爵：萩原 寛明 (バリトン)

伯爵夫人：津山 和代 (ソプラノ)

フィガロ：松森 治 (バス)

スザンナ：福永 修子 (ソプラノ)

ケルビーノ：山田 愛子 (メゾ・ソプラノ)

マルチェリーナ：西村 薫 (メゾ・ソプラノ)

バルトロ：松下 雅人 (バス)

バジロ、ドン・クルヴイオ：西垣 俊朗 (テノール)

バルバリーナ：山田 千尋 (ソプラノ)

アントニオ：山中 雅博 (バス)

花 娘：楠永 陽子 (ソプラノ)、井村 園子 (メゾ・ソプラノ)

合唱：モーツァルト記念合唱団

合唱指揮：益子 務

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団

コンサートマスター：釋 伸司

コンティスオ・チェンバロ：厚地えり奈

指揮：門 良一

制作：益子 務、西垣 俊朗、門 良一

協力：堺シティオペラ

字幕：藤野 明子

序 曲

第1幕

- No. 1 小二重唱(フィガロ、スザンナ)「五・十・二十・…」
レシタティーヴォ(スザンナ、フィガロ)「寸法を測って何してるの？」
- No. 2 小二重唱(フィガロ、スザンナ)「夜、奥様がお前をお呼びなら」
レシタティーヴォ(スザンナ、フィガロ)「いいわね、落ち着いて聞いてよ」
- No. 3 カヴァティーナ(フィガロ)「もし踊りたいのなら伯爵様よ」
レシタティーヴォ(バルトロ、マルチェリーナ)「何でまたあいつの婚礼の日にこんな相談を」
- No. 4 アリア(バルトロ)「復讐！復讐こそ賢者にのみ許された喜びだ」
レシタティーヴォ(マルチェリーナ、スザンナ)「まだ負けと決まった訳じゃない、望みはあるわ」
- No. 5 小二重唱(マルチェリーナ、スザンナ)「どうぞお先へ、素晴らしい奥さま」
レシタティーヴォ(スザンナ、ケルビーノ)「行っちゃえ こうるさい婆さん」
- No. 6 アリア(ケルビーノ)「もう自分で自分が分からない」
レシタティーヴォ(ケルビーノ、スザンナ、伯爵、バジリオ)「ああっ、こりゃだめだ！」
- No. 7 三重唱(伯爵、バジリオ、スザンナ)「何だと！すぐに行つてあの女たらしを追い出せ！」
レシタティーヴォ(伯爵、スザンナ、ケルビーノ、バジリオ)「バジリオ、すぐフィガロを呼べ」
- No. 8 合唱(村人たち)「さあ娘達、花をまいておくれ」
レシタティーヴォ(伯爵、フィガロ、スザンナ)「一体何のまねだ」
- No. 9 合唱(村人たち)「娘たち 盛大に花をまいておくれ」
レシタティーヴォ(フィガロ、スザンナ、バジリオ、ケルビーノ、伯爵)「バンザイ、バンザイ、万歳！」
- No. 10 アリア(フィガロ)「恋する蠅々君、夜も昼も飛びまわるのはこれで終わりだ」

第2幕

- No. 11 カヴァティーナ(伯爵夫人)「愛よ…手をさしのべて、この悩みと嘆きを 慰めておくれ」
レシタティーヴォ(伯爵夫人、スザンナ、フィガロ)「いらっしやいスザンナ、その話を最後まで聞かせて」
レシタティーヴォ(伯爵夫人、スザンナ、ケルビーノ)「とても残念だわスザンナ、あの子に伯爵の話を聞かれたとは」
- No. 12 アリエッタ(ケルビーノ)「恋がどんなものか、あなたにはおわかりでしょう」
レシタティーヴォ(伯爵夫人、スザンナ、ケルビーノ)「ブラーヴォ、いい声ね」
- No. 13 アリア(スザンナ)「さあひざをつけて、じっとして動かないでよ」
レシタティーヴォ(伯爵夫人、スザンナ、ケルビーノ、伯爵)「そんなにふざけて！」
レシタティーヴォ(伯爵、伯爵夫人)「なんと珍しいことだ！貴女が部屋に鍵をかけるとは」
- No. 14 三重唱(伯爵、伯爵夫人、スザンナ)「スザンナ、さあ出ておいで」
レシタティーヴォ(伯爵、伯爵夫人)「扉は開けないというのだな」
- No. 15 小二重唱(スザンナ、ケルビーノ)「開けてよ早く！スザンナよ」
レシタティーヴォ(スザンナ)「あの素速い逃げっぶり！」
レシタティーヴォ(伯爵、伯爵夫人)「元のままだ、さて貴女が開けるかそれとも…」
- No. 16 フィナーレ(伯爵、伯爵夫人、スザンナ、フィガロ、アントニオ、マルチェリーナ、バジリオ、バルトロ)
「出てこい ふらちな小僧め！」

* * *

第3幕

- レシタティーヴォ(伯爵、伯爵夫人、スザンナ)「一体どういう事だ？匿名の手紙…」
- No. 17 小二重唱(伯爵、スザンナ)「ひどいぞ、なんで今までこんなに私をじらせた」
レシタティーヴォ(伯爵、スザンナ、フィガロ)「今朝はなぜあんなにつれなかったんだ」
- No. 18 レシタティーヴォとアリア(伯爵)「訴訟に勝った？何だと！」—「私がつま息をついている間に」
レシタティーヴォ(バルバリーナ、ケルビーノ)「さあさ行きましょう」
- No. 20 レシタティーヴォとアリア(伯爵夫人)「スザンナはまだ来ない」—「素晴らしい日々よ、今はどこに」
レシタティーヴォ(ドン・クルツィオ、マルチェリーナ、フィガロ、伯爵、バルトロ)「訴訟は決着したのだ」
- No. 19 六重唱(マルチェリーナ、フィガロ、バルトロ、ドン・クルツィオ、伯爵、スザンナ)
「かわいい坊や、抱きしめたらあなたの母さんと分かるわね」
レシタティーヴォ(マルチェリーナ、バルトロ、スザンナ、フィガロ)「ねえあなた、過ぎた昔の 私達の愛の結晶よ」
レシタティーヴォ(アントニオ、伯爵)「ケルビーノはまだ城に居ます」
レシタティーヴォ(伯爵夫人、スザンナ)「伯爵様は何と仰ったの？」
- No. 21 小二重唱(スザンナ、伯爵夫人)「そよ風に…」
レシタティーヴォ(スザンナ、伯爵夫人)「手紙の封は何で閉じましょう？」
- No. 22 合唱(村の娘たち)「お受けください奥方さま、バラや 色とりどりの花を」
レシタティーヴォ(バルバリーナ、伯爵、スザンナ、伯爵夫人、アントニオ、ケルビーノ、フィガロ)
「奥方様、ご領地の娘たちからのささやかな贈り物でございます」
- No. 23 フィナーレ(フィガロ、スザンナ、伯爵、伯爵夫人、花娘、村人たち)「行進曲だ 行きましょう」

第4幕

- No. 24 カヴァティーナ(バルバリーナ)「なくしちゃった…どうしよう…」
レシタティーヴォ(フィガロ、バルバリーナ、マルチェリーナ)「バルバリーナ、何をしてる」
レシタティーヴォ(マルチェリーナ)「急いでスザンナに教えなくちゃ」
- No. 25 アリア(マルチェリーナ)「ヤギの夫婦はととも仲良し」
レシタティーヴォ(バルバリーナ、フィガロ、バジリオ、バルトロ)「左側のあずまやってこれだわ」
- No. 26 アリア(バジリオ)「世間の分別とやらにうとかった頃」
- No. 27 レシタティーヴォとアリア(フィガロ)「準備はできた、もうすぐだ」—「目を開けろ、間抜けな男ども」
レシタティーヴォ(スザンナ、マルチェリーナ、伯爵夫人、フィガロ)「奥方様、フィガロがまもなく来るのだそうです」
- No. 28 レシタティーヴォとアリア(スザンナ)「とうとうやって来たこのひと時」—「素晴らしい歓びよ早く来て」
レシタティーヴォ(フィガロ、ケルビーノ、伯爵夫人)「あの調子でだましていたのか？」
- No. 29 フィナーレ(ケルビーノ、伯爵夫人、伯爵、スザンナ、フィガロ、バジリオ、アントニオ、バルバリーナ、マルチェリーナ、バルトロ)「静かにもっと近づいてみよう」

(番号付はペーレンライター社刊行の「新モーツァルト全集」による。なお、第3幕においてNo.19とNo.20とを前後のレシタティーヴォとともに近年の慣行に従って入れ替えている。)


門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Direction

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。1982～2011年、NHK大阪文化センター、1992～2011年、神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。


萩原寛明 ●伯爵、バリトン

Hiroaki Hagiwara, Bariton

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業、同大学院修了。ウィーン国立音楽大学卒業。「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールをはじめ、「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「カルメン」エスカミーリョ等多数出演。現在、関西二期会会員、日本シュベルト協会同人、西宮音楽協会会員、兵庫県立西宮高等学校音楽科講師、ヴァーカルアンサンブルKyotoメンバー。


西村 薫 ●マルチェリーナ、メゾ・ソプラノ
 Kaori Nishimura, Mezzosopran

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、同大学専攻科、同大学院オペラ研究室修了。「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル役でデビュー後、「子どもと魔法」、「フィガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」等多数出演。また、宗教曲やベートーヴェン「第9」、マーラー「大地の歌」などのソリストとして活躍。大阪音楽大学演奏員、関西二期会会員。


津山和代 ●伯爵夫人、ソプラノ

Kazuyo Tsuyama, Sopran

大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。東京音楽大学研究科オペラコース修了。東京二期会オペラスタジオ修了。数多くのオペラに出演する他、第九、オラトリオのソリストとしても活躍。チリ国際音楽コンクール第2位、二期会オペラスタジオ優秀賞。東京文化会館推薦オーディション合格。同志社女子大学講師、聖女子短期大学専任講師。関西二期会、京都フランス歌曲協会、日本演奏連盟各会員。


松下雅人 ●バルトロ、バス
 Masato Matsushita, Bass

国立音楽大学首席卒業、同大学院修了。谷田部賞受賞。ロータリー財団奨学生としてモーツァルトテウム音楽院留学。ボン歌劇場専属歌手として契約し、グルベローヴァ、ルネ・コロ等と共演、200回以上の舞台を踏む。帰国後、関西二期会、日生劇場、びわ湖ホールオペラで活躍。特に「魔笛」ザラストロは指揮者・演出家から絶大な信頼を得、全国各地で好演。日本演奏家連盟、関西二期会各会員、名古屋音楽大学准教授。愛知県立芸術大学講師。


松森 治 ●フィガロ、バス

Osamu Matsumori, Bass

大阪音楽大学声楽科卒業。関西二期会オペラスタジオ修了。びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手を経て多くのコンサートやオペラに出演。「フィガロの結婚」タイトルロール、「魔笛」ザラストロ、「ウィンザーの陽気な女房達」ジョン・ファルススタッフ、「ラ・ファヴオリータ」バルダザレ等や、モーツァルト「レクイエム」、「戴冠ミサ」、ベートーヴェン「第九」のソリストでも出演。09年のモーツァルト室内管弦楽団定期演奏会では「ドン・ジョヴァンニ」のレポレロで出演。関西二期会準会員。


西垣俊朗 ●バジリオ、ドン・クルツィオ、テノール
 Toshiro Nishigaki, Tenor

大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータオラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。オペラでは、ロッシニ「オリオ伯爵」でデビューしロッシニ・テノールとして「セヴィリアの理髪師」「オテロ」「チエネレントラ」等に出演。またモーツァルトの五大オペラ（魔笛、ドンジョヴァンニ、コジ・ファン・トゥッテ、フィガロの結婚、後宮よりの逃走）全ての主役出演。大阪音楽大学講師。


福永修子 ●スザンナ、ソプラノ

Naoko Fukunaga, Sopran

大阪音楽大学声楽科卒業、関西二期会オペラ研究所首席修了。89年アメリカデビュー後、90年よりドイツ留学、バイエルン国立歌劇場にて研鑽を積む。オペラでは「セヴィリアの理髪師」のロジーナ、「ランメルムールのルチア」のルチア、「後宮からの逃走」のコンスタンツェ、「フィガロの結婚」のスザンナ等多数出演。関西二期会、神戸音楽家協会、各会員。大阪音楽大学演奏員。


山田千尋 ●バルバリーナ、ソプラノ

Chihiro Yamada, Sopran

相愛大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学音楽専攻科修了。ミラノ・ヴェルディ音楽院にてディプロマ取得。兵庫県高等学校校独奏独奏コンクール賞受賞。関西二期会室内歌劇場公演「愛の妙薬」ジャンネッタでデビュー。関西二期会オペラ公演「フィガロの結婚」花娘で出演。現在、関西二期会準会員。加古川シティオペラ会員。三木音楽家協会会員。


山田愛子 ●ケルビーノ、メゾ・ソプラノ

Aiko Yamada, Mezzosopran

神戸女学院大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。オペラではRシュトラウス「ナクソ島のアリアドネ」ドリアーデ役、ヘンデル「トロメオ」アレクサンドロロ役等で出演。モーツァルト「レクイエム」、ヴィヴァルディ「グローリア」、ベルゴレージ「スターバト・マーテル」、ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」等、ソリスト。関西二期会会員、神戸市混声合唱団団員。


山中雅博 ●アントニオ、バス

Masahiro Yamanaka, Bass

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。「ドン・ジョヴァンニ」騎士長、「フィガロの結婚」アントニオ、「愛の妙薬」ドゥルカマラ、「薔薇の騎士」ファニナル等多数出演。08年シェークスピアの十二夜では、歌ってヴァイオリンを弾き、芝居をするという、道化役フェステを見事に演じ、大好評を得ている。今後の益々の活躍に期待を寄せられている。関西二期会、京都音楽家クラブ各会員。



楠永陽子 ● 花娘, ソプラノ
Yoko Kusunaga, Sopran

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。同専攻科修了。第10回和歌山音楽コンクール大学生の部第1位。第14回和歌山音楽コンクール一般の部第3位(1位なし)。大阪国際音楽コンクール入賞。



井村園子 ● 花娘, メゾ・ソプラノ
Sonoko Imura, Mezzosopran

武庫川女子大学音楽学部声楽学科卒業。同専攻科声楽専攻修了。女声合唱団ヴォイストレーナー。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart-Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用している

ことは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠に年6回の定期演奏会を開催し、また'74年からは東京定期演奏会を隔年で開催し、既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョア・ピリス('85、'87年)、シブリアン・カツリス('93、'94年)、ペーター・ダム('83、'86、'88、'98、'00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル('86年)、ライナー・キュッヒル('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による(モーツァルト・オペラシリーズ)を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。2007~9年には全10回にわたる(没後200年記念ハイドン・シリーズ)を、2009年~11年には全18回にわたる(創立40周年シリーズ)を開催。また2010年からは(ベートーヴェン・シリーズ)を開始している。

モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー

コンサートマスター ● 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	川島多美子	D.フィッシャー	門 小夜子
	本多智子	原田潤一	石塚 俊	佐伯 利之
	稲庭真理子	幣 晴代	南出 信一	倉永 晴美
	北村奈美	納 麻里	土屋 綾子	ホルン
	大菊西秀	道幸明美	大江 浩志	小曲 善子
	森住優理	佐份利祐	本庄 ちひろ	トランペット
	中野憲一	上野亮子	福田 淳	大西 由起
	中川瑞己	森永愛子	伊賀上文字	中島 真
第2ヴァイオリン	中川敦史	日野俊介	伊賀上文字	パークッション
	清水めぐみ	江口 陽子	高橋 博	チェンバロ
				厚地 えり奈



モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮 ● 益子 務)

Mozart Choral Ensemble (Chor Dirigent / Tsutomu Masuko)

1991年にモーツァルト室内管弦楽団の要請を受け特別編成された合唱団。女声は若手プロを中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダーに参加を要請、1991年7月に益子 務氏の指揮のもと発足、同年12月モーツァルト没後200年を記念してモーツァルト室内管弦楽団第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演後、毎年協演を続ける。93年初の単独自主公演でジャンヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催。98年・2000年ベルギー・フランドル政府の招きで文化交流使節として2度に亘りベルギー演奏旅行を行い、ブリュッセルのサン・ミッシェル大聖堂での演奏、FM-3での放送などで大成功を取った。2000年設立10周年記念にCD「ロッシェニ小荘厳ミサ」をリリース。2010年には神戸で行われた日本音楽療法学会での大会長公演、2011年のモーツァルト室内管弦楽団との合唱団創立20周年記念コンサートに引き続き、2012年5月26日には合唱団の自主公演として20年の歩みを記念したコンサートをいずみホールで行う予定。

モーツァルト記念合唱団 / 出演メンバー

合唱指揮 ● 益子 務

ソプラノ	楠永 陽子	平芳真寿美	森内美佳子	山本 真紀
アルト	以倉安希子	井村 園子	佐野 康子	中根 佳江
テノール	岡本 弘信	桑田 明和	近藤 達夫	吉田 均
バス	ジョニー・バーズ	二階堂哲雄	ピーター・フィンケ	米岡 実

モーツァルトの「超現実力」

モーツァルトのオペラのみならずすべてのオペラの中であって最高の傑作とされる《フィガロの結婚》は、1786年モーツァルト30歳の作品である。原作はフランスの劇作家ボーマルシェ(1732-99)による戯曲(1784年)で、貴族社会を否定しかねない下剋上の内容からフランスはもとより諸外国でも上演禁止となった。フランス革命の遠因となったともいわれるほどである。モーツァルトは1782年の《後宮からの誘拐》以来オペラを完成させる機会に恵まれず、自分にふさわしい新たな題材を探し求めていた。「私は軽く100本以上の台本に目を通しましたが、満足できるものはひとつも見つかりませんでした。」(父親宛の手紙)。

《フィガロ》はモーツァルト自身が気に入って台本作者ダ・ポンテに持ち込んだらしい。「大事なのは全体にコミカルなことです」(上述の手紙)というモーツァルトの要求にぴったりだったようだ。ボーマルシェの原作は「フィガロ三部作」といわれるものの2番目にあたる。因みに第1作は《セヴィリアの理髪師》(1775年)、第3作は《罪ある母》(1792年)で、後者はモーツァルトの死後のものである。《セヴィリアの理髪師》といえばロッシーニのオペラが有名であるが、ナポリのオペラ作曲家パイジェッロ(1740-1816)によるオペラが1783年にウィーンでも初演され、以後《フィガロ》が初演されたブルク劇場のレパートリーとなっていて、そのこともモーツァルトが《フィガロ》を選んだ動機であつたらしい。

台本作者ダ・ポンテの回想録によれば、ダ・ポンテは原作の政治色を薄めるのに苦労したようだ。内容に関する宮廷とのやり取りを繰り返して、ようやく許可を得ている。これには皇帝ヨーゼフ2世が啓蒙専制君主をもって任じていたこともプラスに働いたようだ。作曲は1785年の11月頃着手されたが、父親宛の手紙やダ・ポンテの回想録から推測すると実質的には6週間という信じられないほどの短期間にほぼ出来上がったと考えられる。

《フィガロ》と平行して作曲された作品が、ピアノ四重奏曲 ト短調 K.478、ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 K.481、ピアノ協奏曲 第22番 変ホ長調 K.482、ピアノのためのロンド ニ長調 K.485、オペラ《劇場支配人》K.486、ピアノ協奏曲 第23番 K.488、同第24番 ハ短調 K.491といった傑作群であるから、それも納得できるというものである。初演は1786年5月1日で、その年のうちに計10回ほど上演されている。ウィーンでの上演は空前の大成功というほどではなかったが、プラハではすばらしく人気を博した。その評判はウィーン

にも伝わったし、ヨーロッパの他の地域でも知られるきっかけともなったのである。プラハの劇場がモーツァルトに新しいオペラの作曲を依頼し、それが《ドン・ジョヴァンニ》の誕生となったことはよく知られている。

このオペラの人気の秘密を考えてみよう。オペラ・ファンでなくともわかりやすいのはアリアの名曲が多いことである。フィガロの「もう飛ぶまいぞ」(No.10)、ケルビーノの「恋とはどんなものかしら」(No.12)、伯爵の「私のため息をついている間に」(No.18)、伯爵夫人の「愛の神様」(No.11)、「すばらしい日々はどこに」(No.20)は今日単独で非常に多く演奏される。モーツァルト独特の平易でありながら美しいメロディがふんだんに聴かれる。しかしおそらくモーツァルトが最も力を注いだのは重唱であろう。全29曲のナンバーのうちフィナーレを含めれば12曲もの重唱がある。圧巻は第3幕の6重唱(No.19)で、なんと6人もの登場人物が個性豊かに描き分けられている。このオペラが「アンサンブル・オペラ」といわれるゆえんである。そしてモーツァルトの序曲の中でもっともよく知られた《フィガロ》の序曲は作曲の順序としては一番最後に、驚くべきことにおそらく一晩で作曲されたといわれている。

さて、原作者はフランス人、台本作者はイタリア人(ユダヤ系らしいが)、そして舞台はスペインとラテン色豊かなドラマであるが、これにモーツァルトの音楽がつくとかなり違う様相を呈するように思えるのだがどうだろうか。このオペラの登場人物は、浮気をするにしても、策略を練るにしても、謝罪するにしても、みな極めて真剣である。色恋沙汰の一見非常にいい加減なドタバタ喜劇がすばらしく気まじめに演じられていく。これはモーツァルトの持つゲルマンの血によるのであろうか。きわめつけは終幕の伯爵の謝罪の場面である。口先では殊勝に謝ってもあくる日から女の尻を追っかけまわすにきまっている伯爵が、膝をついて夫人に謝り、一同が肅々とこれを受け入れ、めでたしめでたしとなる。この場の音楽は極めて厳粛で、宗教的な雰囲気すら感じられる。このなりゆきに引き込まれながらも若干の違和感を覚えるのは筆者だけであろうか。私はこれをモーツァルトの音楽の持つ「超現実力」と呼んでいる。現実(この場合ラテン的な現実)を超えた別種の真実味を持った力という意味合いである。モーツァルトの音楽にはすべてこの「超現実力」があり、それがとくにわれわれ日本人をとらえて放さない魅力となっていると思う。

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
理 事 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授) 森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 有 限 公 司 顧 問)
吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 名 誉 顧 問)

(50音順)

顧 問 伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリーホールディングス	大同ケミカルエンジニアリング	丸山興産
井上冷熱	住友金属工業	高松建設	三井住友カード
関西電力	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	
きんでん	住友生命保険	林 六	
小林製薬	住友倉庫	福山製紙	
阪野商店	ダイキン工業	丸 紅	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	村本孝夫	高杉方宏	得田栄蔵	松井基純	大西富久子
深田晴世	松本幸道	川島弘章	菱谷勝次郎	松井香代子	山田晴三
河野幹雄	笹川忠士	川島啓助	足立宣治	山本道子	西垣真理子
河野奈津子	緒林桂子	中井武司	東武次郎	大磯隆一	榎原良行
福岡隆子	碓井昭彦	中井佐和子	竹林大	細井提吉	渡辺義明
梅原一哲	碓井みち子	豊田成子	豊田紘生	大谷弘枝	小川雄介
石本三千也	長井重龜	切畑敦詞	飯田祐子	大原清司	能田久美
田村真也	岸田多門	中東富佐子	宮井芳子	大原典子	下園靖子
岸田克己	能田豊	三石武男	塩脇昭司	伊藤久栄	河井洋子
梅村博也	宮井茂治	内藤芳美	塩脇祥子	山村哲夫	宮北浩司
屋良記佐治	祐野尚子	神林恒道	一木晃	速水洋紀	芳中民代
國友正和	金定秀光	杉浦和子	岩崎弘一	天尾登	奥村一二
稲垣千代子	金定嘉也子	野村透	河洞清子	橋本博	市崎英二
浮田俊太郎	中嶋允子	今井安男	佐竹時子	梁瀬健	櫛木好明
桑山弘	福岡昭吉	玉手隆子	千宗守	松山壽一	深山浩
三谷郁子	菅正徳	野崎志朗	荒木陽子	松谷郁子	加藤啓
三浦信一郎	日高穂	橋本靖昭	宮崎悦朗	山下鉄男	
水鳥敬夫	藤原啓助	有賀照雄	栗原順子	古川法史	
渡辺優子	馬場明和	佐野哲郎	完倉正信	萬野尊昭	
平川美津子	阪野和子	小柳陽一	野口祐三	植田史子	
安藤邦洋	和田暁夫	田中四郎	野口外志子	松本桂子	
橋本太三雄	桑名孝子	村西良彦	森本武	佐野哲昭	
阿部由美子	石光正男	鳥村猛	小山浩	池田米	
中川泰幸	松枝正明	河原恭子	野原清秀	八木孝昌	
石上豊子	松枝多加子	松井とも子	堀正二	高田早智子	

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。
・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)
・ご同伴者は10%割引となります。
・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。
・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。

(有効期間は入会時より1年間です。)
随時ご入会いただけます。